

令和7年度事業報告書

令和7年 1月 1日から 令和7年 12月 31日まで

一般社団法人日本カーシェアリング協会

1. テーマと重点項目（1年間を通して特に意識的に取り組んだこと）

「同じがんばりで、成果爆上がり」

<実現するための3つの戦略>

- ・今のやり方を、ちょっと変える（プロセスを見直す・フォーカスする・スタイルを変える）
- ・学び合いでスキルアップ（YouTube スキルラボ）
- ・AIを相棒に（毎月活用事例紹介）

<5つの重点項目>

- ・営業力と発信力の強化（支部の黒字化・リース拡大の実現）
- ・車をお金に換える事業の拡大
- ・事故対策・車両管理体制強化
- ・AI活用による効率化
- ・人材の確保と育成の仕組みを作る

2. 事業報告

成果

- ・活用車両台数…………… 636台（前年比 90% -71台）
- ・新規車両寄付台数…………… 380台（前年比 44% -480台）
 - ▷活用 160台（前年比 33% -327台）
 - ▷リサイクル 120台（前年比 32% -253台）
- ・常設貸出拠点数…………… 5拠点（石巻本部・佐賀支部・栃木支部・静岡支部・秋田支部）（前年と同じ）
- ・災害拠点数…………… 14拠点（石川県5拠点、熊本県3拠点、鹿児島県霧島市、福岡県福津市、静岡県牧之原市、静岡県富士市、秋田県秋田市、宮城県石巻市）（前年比 100%）
- ・総貸出件数…………… 2,976件（前年比 51% -2,892件）

事業	受益者数	内訳
コミュニティ・サポート事業部	30地域（1481+14名） 前年比 地域数 +0地域 100% 会員数 +14名 110% ※テスト運行含む	移動に課題のある地域・コミュニティ形成及び活性化等に貢献 ▷新規導入サポート…………… 2地域（46+14名） （内訳）設立…………… 1地域（46名） （内訳）テスト運行実施…………… 1地域（14名） ▷既存導入地域サポート…………… 28地域（1435名） （内訳）石巻市内…………… 11地域（649名） （内訳）石巻市外…………… 17地域（786名）
事業	受益者数	内訳

<p>ソ ー シ ャ ル ・ カ ー サ ポ ー ト 事 業 部</p>	<p>リース:延べ 345 個人・団体 前年比 +97 件 139%</p> <p>レンタカー:延べ 524 件 前年比 +78 件 117%</p>	<p>生活困窮者支援、NPO・移住者支援、災害の備え、震災伝承などに貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷NPO や NPO の職員の支援…………… 102 件 ▷移住者、地域おこし協力隊の支援…………… 36 件 ▷災害の備え構築(災害時返却カーリース)…… 107 件 ▷被災者の継続支援(災害時特別カーリース)… 55 件 ▷生活困窮要支援者支援(生活お助けリース)… 26 件 ▷その他リース…………… 19 件 ▷レンタカー…………… 524 件 <p>(うち震災伝承施設巡りレンタカー利用 10 件)</p>
<p>モ ビ リ テ イ ・ レ ジ リ エ ン ス 部</p>	<p>対応した自然災害 8 件 前年比 +3 件</p> <p>貸出件数:2,107 件 前年比 -3,065 件 41%</p> <p>ピーク時活用台数:378 台 前年比 -58 台 87%</p>	<p>令和 6 年 1 月能登半島地震(石川) (地震・豪雨合計)</p> <p>令和 6 年 9 月能登半島豪雨(石川)…………… 1,248 件</p> <p>令和 7 年 2 月大船渡大火事(岩手)……1 件</p> <p>令和 7 年 8 月九州豪雨(鹿児島・熊本・福岡)……804 件</p> <p>令和 7 年 8 月秋田豪雨(秋田)…… 2 件</p> <p>令和 7 年 9 月台風 15 号(静岡)…… 38 件</p> <p>令和 7 年 10 月宮城豪雨(宮城)……9 件</p> <p>令和 7 年 10 月八丈島台風 22 号・23 号(東京)…3 件</p> <p>令和 7 年 12 月青森県東方沖地震(青森)…2 件</p> <p>災害時の連携協定…………… 75 件</p>

【1】コミュニティ・サポート事業

【目標 1】石巻市内の持続化を進めて、成果爆上がり

- ・達成指標 1) 協会で行っている業務を地域へ引継ぐ 50 項目中 30 項目前進
- ・達成指標 2) 持続化進捗表 20 項目の前進
- ・達成指標 3) 導入地域外の問い合わせ対応の省力化

評 価

- ・達成指標 1) 引継ぎを図る進捗表を作成し、49 項目の課題を前進させることができた【達成率:121%】
- ・達成指標 2) 自律運営に向けた課題について、33 項目で前進させることができた【達成率:165%】
- ・達成指標 3) 導入地域外からの問い合わせについて、説明資料の整備や対応フローの整理を行い、対応の省力化を図ることができた【達成率:100%】

実施内容

- ・より自律した運営を行えるよう、これまで協会で行っていた業務(主に資金管理)を各カーシェア会へ引き継ぎを実施した。引継ぎにあたっては、単に業務を移行するだけでなく、代行していた業務が各カーシェア会で各実に遂行できるように伴走したサポートに注力し、安心して管理できる体制を整えることができた。その結果、管理システムの研修会へ意欲的に参加する姿勢が見られたほか、意見交換を目的とした世話人会の実施など、各カーシェア会が自ら課題解決に向けて取り組む動きが活性化した。
- ・カーシェア会の利用者は増加する一方、高齢化により役割の担い手が不足している地域が多い。新たな担い手を確保するため、町内会会合での活動広報や、地域包括支援センターなど地域住民が関わる関係機関との連携強化を実施した。新規で担い手を呼び込む取組と合わせて、既存会員への働きかけも行った結果、延べ 13 名の役割を担う人材を発掘することができた。
- ・代行していた業務を地域へ引き継ぐ 50 項目のうち、49 項目で進捗があった。

総 評

設定した目標に対し、大きく前進させることができた。石巻市内のカーシェア会がより持続可能な体制へと発展するため、これまで実施してきたチラシ配布に加え、関係機関との連携事例を構築することができた。地域の関係機関と連携することで、課題解決に向けた働きかけがカーシェア会の枠を超えて広がり、担い手確保や課題解決に取り組む力の向上につながることができた。一方で、資金管理業務については自立に至るまで継続的な支援が必要であるため、引き続き地域ごとの状況に応じたサポートを行いながら、業務の定着状況を確認し、より安定した運営体制の構築と事務面の自律化に向けて取り組んでいく予定。

課 題

- ・特定の担い手発掘の強化、担い手のモチベーション低下を防ぐ仕組みや体制づくり。
- ・総会や助成金の整理など事務面の理解や管理の精度を上げる必要がある。

【目標2】石巻市外に注力し、成果爆上がり

- ・達成指標1) 石巻市外の地域の状況を管理する。
- ・達成指標2) ヒアリングを通じて全地域の現状を把握する
- ・達成指標3) 市内・市外の従事時間割合を4:6にする

評価

- ・達成指標1) 石巻市外用の持続化進捗表を作成し、毎月更新することができた【達成率:100%】
- ・達成指標2) 石巻市外の会の現状把握と課題の整理、解決案の提案ができた【達成率:92%】
- ・達成指標3) 従事時間の割合を管理し、注力出来ているかを確認した【達成率:50%】

実施内容

- ・石巻市外で活動するカーシェア会18地域のうち12地域(サポート料付帯)とヒアリングを実施
- ・ヒアリングを実施した地域のうち、5地域へサポート案を提案
- ・サポートを提案した地域のうち2地域に2次ヒアリングを実施

総評

目標1で石巻市内のカーシェア会の自立化が進んだことで、これまで十分に対応できていなかった県外のカーシェア会についても、状況把握やサポートの提案を進めることができた。ヒアリングを通して各カーシェア会が抱えている課題を整理し、必要に応じてサポート内容の提案を行うことができた。また、石巻市内のカーシェア会における好事例を共有することで、チラシのリニューアルや運営ルールの再調整など、各地域の実情に応じた改善提案を行うことができた。一方で、実際の従事時間においては石巻市内のカーシェア会へのサポート割合が高く、活動状況によっては定期的なヒアリングを実施できないケースもあった。しかしながら、オンラインを活用したサポート体制の構築を進めることができ、今後の県外カーシェア会への継続的なサポートにつながる基盤を整えることができた。

課題

- ・県外のカーシェア会の運用状況をより詳細に把握することができたことで、公認 CCS 規約の見直し(修正)やサポートの仕方について検討する必要があることを認識できた。

【目標3】CCSの魅力発信で、成果爆上がり

- ・達成指標1) CCS の魅力発信ほっこり動画5つ発信
- ・達成指標2) 視察プログラムの見直し
- ・達成指標3) 講演15件、視察8件、新規導入10件

評価

- ・達成指標1) ショート動画撮影と研修を受講し、5つの動画発信ができた【達成率:100%】
- ・達成指標2) 石巻視察プログラムを見直しを行い、オンライン視察の実践ができた【達成率:65%】
- ・達成指標3) 講演会7件(15件)、視察6件(8件)、新規導入1件(10件)【達成率:42%】
- ・達成指標4) 視察マニュアル、導入マニュアルが完成した【達成率:100%】

実施内容

- ・7件の事例紹介の対応と発信を実施

福島県相馬市(2/21)	石川県七尾市(3/25)ケア会議	愛知県豊田市(6/6)
石川県七尾市(9/2)	岩手県一関市(9/3)	岩手県(9/9)
大阪府豊能町(10/26)		

- ・6地域・団体より視察受入れを実施。

大沢わぐわぐ未来協議会(2/27)	福島県川俣町(3/10)	トヨタ自動車(3/24)
岩手県岩泉町役場(10/6)	しらみね未来づくり協議会(10/10)	横手市市民センター(10/13)

総 評

県外のカーシェア会を視察対象としたオンライン視察プログラムを作成・実施することができ、全国から視察を希望する地域や団体が、より CCS の取組を学ぶことができる素地を構築することができた。また、CCS スタッフメンバーが広報用の動画を作成するスキルを身に付けることができた。一方で、講演会や視察、新規導入については目標値に至らなかったため、次年度は CCS の取組発信や事例紹介の場をさらに広げる施策に取り組んでいく予定。

課 題

- ・発信内容や導線の整理、事例紹介の機会の拡充など、発信方法の強化が必要
- ・限られた人員で対応できるよう、オンラインを活用した発信の標準化、事例紹介など対応できる人材が必要

【目標 4】 ツール活用で、成果爆上がり

- ・達成指標 1) まきたろうリニューアルと新規 5 件導入
- ・達成指標 2) AI 活用 10 件
- ・達成指標 3) 説明資料 5 つ開発 & リニューアル

評 価

- ・達成指標 1) まきたろうのシステムをリニューアルし、マニュアルの更新や未活用地域への導入ができた【達成率: 85%】
- ・達成指標 2) 事業部で活用する AI ツールの作成を進めた【達成率: 53%】
- ・達成指標 3) 既存の説明資料のリニューアル、担い手確保の新しいチラシを作成することができた【達成率 100%】

実施内容

- ・まきたろう新規導入 3 件(のぞみ野カーシェア会、中央カーシェア会、松の実フレンド)
- ・AI ツールの作成 4 つ作成(助成金申請・報告 GPTs(事業部用)、助成金日報作成、メール文章チェック、CCS 業務アシスタント bot)

総 評

既存のチラシや説明資料を見直し、リニューアルしたことで担い手候補に向けて安心して活動に参画できるようなツールを作成することができた。まきたろうのシステムリニューアルを行ったことでこれまで活用していなかった地域に導入することができた。

課 題

- ・まきたろうのシステムトラブルや活用時のサポート体制の仕組みづくりが必要。
- ・まきたろうをより活用してもらう仕組みづくりが必要

【その他にあった取り組み】

(1) コミュニティ・カーシェアリング導入、運営サポート事業

- ・運営サポート: 30 地域 (既存サポート 28 地域+新規導入1地域+テスト運行実施1地域)

※下線が令和7年に設立総会を行ったカーシェア会

市内	吉野町カーシェア会、あゆみ野カーシェア会、門脇カーシェア会、中央カーシェア会、渡波カーシェア会、三ツ股カーシェア会、大門町カーシェア会、のぞみ野カーシェア会、山下南カーシェア会、貞山運河カーシェア会、荻浜地区カーシェア会(休会中)
市外	林際カーシェア会、松の実フレンド
県外のカーシェア会	
岩手県	上浜田アッシーくん、田代カーシェア会、猿沢カーシェア会
山形県	カーシェアリング南陽市助け合いの会
石川県	うかわカーシェア会
静岡県	杉田 3,4 区街づくり協議会

愛知県	水源カーシェアさくら会、平山自治区・平和町自治区カーシェア会
滋賀県	葛川いきいきサークル
京都府	竹野活性化委員会カーシェアリング部会
岡山県	助け英田しちやろう会、小鳥の森カーシェア会
鳥取県	おがもカーシェアリング倶楽部、永江ささえ愛カーシェア倶楽部、上北条ふれあい車会、まちづくり大山

(2) 地域向け研修会の実施

担い手向け研修会(6/5) 大おちゃっこ会(8/25) 安全運転講習会(10/10) まきたろうアプリ研修会(9/18)

(3) スタッフ向け研修、地域会合への参加

- ・包括ケア会議での CCS 説明会(7/2)
- ・みやぎ地域コーディネーター研修会(7/31)

(4) 石巻市 SDGs モデル事業(グリーンスローモビリティの活用した協働による新たな移手段の構成事業)

- ・グリーンスローモビリティ既導入グループへの運営サポート 2 地域

委 託	地域課題サポート(コミュニティ・カーシェアリング)事業(石巻市)／自治体 SDGs モデル事業グリーンスローモビリティ等運用支援業務(石巻市)／豊田市コミュニティ・カーシェアリング導入支援業務(豊田市)／コミュニティ・カーシェアリング導入支援事業業務(南陽市)／
助 成 金	—
補 助 金	みやぎ地域復興支援助成金

※他、石巻市内のカーシェア会において地域互助活動推進事業助成金などを活用

【2】ソーシャル・カーサポート事業・損害保険代理店業務

【目標 1】 対応機会を活かして、成果爆上がり - 寄付車の貸出しを推進することで社会に価値を伝える

・達成指標 1) 対応の質を落とさず支援規模を 300 件に

カーリース : 延貸出件数 395 件 *約 2 割は期中で解約されると試算しており、年末時点では約 300 件の予定

- ▷ NPO カーリース: 79 件 (既存契約 79 件 / 新規契約 20 件)
- ▷ 災害時返却カーリース: 総契約件数目標: 100 件 (既存契約 34 件 / 新規契約 66 件)
- ▷ 生活お助けカーリースの契約件数目標: 34 件 (既存契約 14 件 / 新規契約 20 件)
- ▷ 移住カーリース 契約件数目標: 31 件 (既存契約 11 件 / 新規契約 20 件)

プラン	件数	想定解約 (2割)	既存契約	新規契 約
NPO カーリース	79 件	20 件	79 件	20 件
災害時返却カーリース	77 件	19 件	46 件	50 件
生活お助けカーリース	44 件	11 件	31 件	24 件
移住カーリース	35 件	9 件	14 件	30 件
その他のカーリース	65 件	16 件	8 件	73 件
合 計	300 件	75 件	178 件	197 件

レンタカー : 500 件

保険 : 100 件

・達成指標 2) 対応の機会を活かす(石巻)

・達成指標3) 対応の基準を上げる(石巻)

評価

・達成指標1) 対応の質を落とさず支援規模を300件に【達成率115%】

カーリース：延貸出件数 345件 *約2割は期中で解約されると試算しており、年末時点では約300件の予定

- ▷ NPOカーリース:102件/79件(既存契約74件/79件/新規契約28件/20件)
- ▷ 災害時返却カーリース:107件/100件(既存契約30件/34件/新規契約77件/66件)
- ▷ 生活お助けカーリース:26件/34件(既存契約8件/14件/新規契約18件/20件)
- ▷ 移住カーリース:36件/31件(既存契約12件/11件/新規契約24件/20件)

プラン	目標件数	実績	達成率	既存契約	新規契約
NPOカーリース	79件	102件	129%	74件	28件
災害時返却カーリース	77件	107件	139%	30件	77件
生活お助けカーリース	44件	26件	59%	8件	18件
移住カーリース	35件	36件	102%	12件	24件
その他のカーリース	65件	74件	114%	15件	59件
合計	300件	345件	115%	139件	206件

レンタカー：524件/500件【達成率:105%】

保険：100件

・達成指標2) 対応の機会を活かす(石巻)【達成率60%】

・達成指標3) 接遇力向上により対応品質を改善【達成率80%】

実施内容

- ・来店したユーザーに対し、カーリースの各種チラシをお知り合いに紹介してもらえるよう説明のうえ配布
- ・紹介をきっかけに、新規利用へつながった事例を確認
- ・職員を対象に接遇研修を実施し、対応姿勢や基本対応の統一を図った
- ・質問や問い合わせに対し、迅速に確認・対応する体制を徹底した

総評

本事業では、カーリース事業の安定的な推進と支部体制の強化を両立させる取り組みを行い、カーリース目標総数100%超を達成する成果を上げた。あわせて、災害支援活動を通じて支部を支えてきたメンバーからの世代交代を進め、新規採用および育成により、持続可能な運営体制の構築を図った。

また、ロータリークラブや各種社会福祉協議会、自治体等に対し、災害時返却カーリースや車両寄付、架け橋ドライバー登録などの広報活動を全拠点の所在県で実施し、事業の認知向上と連携基盤の強化につなげた。さらに、生活お助けカーリースの利用基準を整理するとともに、来店対応を活かした紹介促進や、接遇研修・迅速な対応体制の徹底により、サービス品質の向上を図った。これらの取り組みにより、事業成果と対応品質の双方において一定の成果を上げ、今後の継続的な事業展開に向けた基盤を整えることができた。

課題

今後の課題として、事業全体を安定的かつ継続的に運営していくため、現場を統括し判断・調整を担えるマネージャー人材の育成が求められる。また、災害時返却カーリースおよび生活お助けカーリースについては、支援の必要性が高い制度であることから、関係機関や地域への周知・連携を一層強化し、利用促進と認知

拡大を図っていく必要がある。

【目標 2】オペレーションの見直しで、成果爆上がり -オペレーションの見直しで効率的な体制をつくる

- ・達成指標 1) 現状の把握・検討
- ・達成指標 2) 申込～契約のプロセスの見直し

評価

- ・達成指標 1) 提供日数を把握し最短納車目標を設定、達成【達成率 100%】
- ・達成指標 2) 申込のオンライン化、電子契約の運用開始、候補車両の可視化【達成率 100%】

実施内容

- ・申込から納車までの日数および作業時間を記録し、業務フローの現状を把握した
- ・記録結果をもとに、リードタイム短縮に向けた課題の整理・検討を実施した
- ・必要事項の確認を複数回行っていった運用を見直し、原則 1 回で完了できるよう改善した
- ・確認作業の重複を削減し、業務効率化を図った
- ・申込手続きのオンライン化を実施し、来店・書面对応にかかる時間の削減を図った
- ・電子契約の運用を開始し、契約締結までのリードタイム短縮を推進した
- ・候補車両を可視化する仕組みを整備し、利用者が車両状況を把握しやすい環境を構築した

総評

申込手続きのオンライン化および電子契約の運用開始を通じて、来店や書面对応に伴う時間的負担を軽減し、契約締結までのリードタイム短縮を推進した。また、候補車両を可視化する仕組みを整備することで、利用者が車両状況を把握しやすい環境を構築し、申込から納車までの一連の流れにおける利便性向上を図った。これらの取り組みにより、業務の効率化と利用者満足度の向上に一定の成果が得られた。

課題

申込のオンライン化や電子契約を導入したものの、利用状況にばらつきがあり、業務フローの完全な一本化には至っていない。また、候補車両の可視化についても情報更新体制に改善の余地があり、申込から納車までの所要日数に関する定量的な効果測定を含め、さらなる改善が必要である。

【目標 3】プランの変更で、成果爆上がり -カーリースの価格の見直し

- ・達成指標 1) プランの見直し
- ・達成指標 2) ツールのリニューアル
- ・達成指標 3) 運用開始

評価

- ・達成指標 1) 料金プランの変更を実施【達成率 100%】
- ・達成指標 2) 各種カーリースのチラシおよび申込フォームをリニューアル【達成率 100%】
- ・達成指標 3) 令和 7 年 8 月 1 日より運用開始【達成率 100%】

実施内容

- ・利用状況やニーズを踏まえ、料金体系の見直しを行い、新たな料金プランへの変更を実施した
- ・各種カーリースに関するチラシのデザインおよび記載内容を刷新し、サービス内容が分かりやすく伝わるよう改善した

- ・申込フォームをリニューアルし、入力項目の整理と操作性の向上を図った
- ・改定した料金プランおよびリニューアルしたチラシ・申込フォームについて、令和7年8月1日より運用を開始した

総 評

料金プランの変更をはじめ、各種カーリースのチラシおよび申込フォームのリニューアルを実施し、令和7年8月1日より新たな運用を開始した。各達成指標はいずれも計画どおり達成されており、サービス内容の明確化と申込手続きの利便性向上により、利用促進に向けた基盤整備を行うことができた。

課 題

申込件数や利用動向などの実績データを継続的に把握・分析し、必要に応じた内容の見直しや改善を行っていく。

【その他にあった取り組み】

- (1)カーリース料金改定、メンテナンスオプションの適正化
物価高騰に伴い、活動の継続維持のため料金改定を実施した。
ユーザーの満足度向上のため、標準メンテナンスの内容を充実させた。
- (2)業務効率化のため、notebookLM を活用したリースに関する対応マニュアルを作成し、運用を開始した。

【3】モビリティ・レジリエンス事業

【目標1】連携先との関係深めて、成果爆上がり

- ・達成指標1) 団体・企業で講演実施・交流参加(目標件数:10件)
- ・達成指標2) 自動車税や車庫証明などの公的制度を変える
- ・達成指標3) 連携実績チェック表で確実前進(目標件数:10社ヒアリング)

評 価

- ・達成指標1) 連携企業&団体での講演実施・交流参加 or 決定 10件【達成率:100%】
- ・達成指標2) 車庫証明の即日発行が実現、自動車税関連は実現せず【達成率:51%】
- ・達成指標3) 連携実績チェック表を作成し、ヒアリング10社実施。設定した連携目標は未達【達成率:88%】

実施内容

- ・支援活動報告の際に活動紹介や交流の相談を行った結果、事例紹介や懇親会への参加の機会を得ることができた。
- ・災害協定を締結している自治体・団体向けの報告会を開催した。
- ・警察庁へ相談の結果、災害時の車庫証明を即日発行できるようになった。
- ・坂井学防災担当大臣へ表敬訪問し、災害救助法の適用について提案を行った。
- ・協定を締結している企業・団体の連携状況を可視化できる連携実績チェック表を作成し運用を開始した。
- ・新たに2企業・団体の加盟があった。また、6自治体(3県3市)と災害時の連携協定を締結した。

▷ 災害時の連携協定締結 ※下線が令和7年新規締結

企業	49企業・団体（新規2団体）
・団体	アドバンスクラブ、(株)エーモン、(株)オートボックスセブン、JU宮城、JU熊本、日本ミシュランタイヤ(株)、ルート産業(株)、JU岩手、JU宮崎、JU新潟、JU静岡、JU兵庫、

	JU 青森、JU 秋田、全日本ロータス同友会宮城県支部、(株)ハンコックタイヤジャパン、JU 岐阜、JU 長野、中央精機(株)・中央精機東北(株)、(株)ウェッズ、JU 東京、(株)カーセブン デジフィールド、(一社)日本自動車連盟、JU 長崎、JU 埼玉、JU 愛媛、JU 奈良、JU 京都、JU 富山、JU 大阪、JU 広島、JU 三重、JU 栃木、自販連愛知県支部、JU 北海道、JU 徳島、JU 高知、JU 神奈川、JU 福井、JU 愛知、自販連石川県支部、(株)ソフト 99 コーポレーション、(株)ソフト 99 オートサービス、アイオン(株)、スーパー乗るだけセット(西自動車商会)、APARA、JU 鹿児島、他 1 社
自治体	25 自治体 (新規 6 自治体) 石巻市、岡山県、熊本県、佐賀県、宮城県、岩手県、福島県、栃木市、人吉市、栃木県、新潟県、豊田市、青森県、富山県、延岡市、福岡県、愛知県、秋田県、姫路市、 <u>都城市</u> 、山形県、荒尾市、兵庫県、熊本市、石川県

総 評

連携先との関係構築で大きく前進することができた。連携企業・団体へ事例紹介や親睦の打診を進めた結果、長野・関東自販連や全社協等で事例紹介の機会を得ることができた。また、協定締結自治体向けの報告会の開始や関係課が集う県主催の会合で備えの啓発発信を行った結果、備えの連携(拠点候補地のリスト化新規 265 箇所追加、合計 353 箇所)も大きく前進した。

また、大臣訪問をはじめ制度変更のためのアプローチを行った結果、車庫証明・通行証・自賠責等制度的な前進があった。

課 題

- ・連携状況を見える化する実績チェック表を作成したが、運用管理に力を注ぐことができていない。
- ・自動車税・災害救助法関連等の制度的な変化を更に行うには継続的なアプローチが必要。

【目標 2】 人材を配置して、成果爆上がり

- ・達成指標 1) 環境を整え、人材を育成する
- ・達成指標 2) 人材 BANK 計 300 名 計 35 都道府県 + 支援経験者新規 5 名
- ・達成指標 3) 2 つの支部設置

評 価

- ・達成指標 1) 3 人体制が実現し、マニュアルも基本的な部分は整備。育成期間が一部不足【達成率: 88%】
- ・達成指標 2) 人材 BANK 登録者 147 名 (35 都道府県) (33 名・7 都道府県増) 【達成率 50%】
- ・達成指標 3) 石川・宮崎を次年度設置で調整【達成率: 75%】

実施内容

- ・3 名人材を採用 (バックオフィス 1 名・現場対応 2 名)
- ・マニュアルの整備
- ・人材バンクの登録者数を増やすため、協定締結自治体にチラシ設置や広報誌への掲載を依頼。
- ・石川支部・宮崎支部設置に向けて調整し、いずれも 2026 年 1 月開所となる。熊本・兵庫の支部設置も調整を進める。

総 評

事業に必要な人材を確保し、ほぼ一通り業務を経験し、基本的なマニュアルを整備することができた。人材バンクの登録者について掲げた目標に対して、エリアは広げることができたが、人数は大きく下回ってしまった。

課 題

人材バンクの登録者についてエリアは広げることができたが、人数をあまり増やすことができなかった。

【目標 3】 やり方変えて、成果爆上がり

- ・達成指標 1) AI 活用(10 分野)
- ・達成指標 2) 業務プロセスの見直し

評 価

- ・達成指標 1) 8 分野で活用(一部活用方法調整中)【達成率:65%】
- ・達成指標 2) 概ね取り組めたが、新ルール運用とスケジュール管理に課題が残る【達成率:87%】

実施内容

- ・業務に AI 活用[助成金申請・拠点スタッフ用 ChatBOT・申込者向け ChatBOT・議事録・広報・(財団・共募関連)・(助成金報告)・(アンケート)] ※()活用方法調整中
- ・業務プロセスの見直し(記録・必要車両把握・新ルール運用・年間スケジュール・振り返り)

総 評

業務に AI を活用し効率化が実現した。特に会議の記録・広報・助成金申請・拠点用 Chat BOT への活用し業務の生産性を高めることができた。また、毎月の振りかえりを通して業務の見直しとマニュアルの更新を行う仕組みを構築することができた。

課 題

- ・年間スケジュールを作成できたが、意識して運用することが十分できていなかった。
- ・必要車両のリアルタイム把握、インタビュー撮影の仕組みづくりにも課題が残っている。

【その他にあった取り組み】

(1)災害対応

災害	無償貸出期間	件数	実施地域	受益対象者の範囲
令和 6 年 1 月 能登半島地震 豪雨支援	2024/1/15～ 2025/12/25	長期貸出 19 件 短期貸出 1,274 件 総 数 1,293 件	七尾市、輪島市、珠 洲市、能登町	実施地域周辺の被災 住民及び支援団体、被 災した市町、および社 会福祉協議会
令和 7 年 3 月 岩手県大船渡市山 林火災支援	4/7～7/7	長期貸出 1 件	岩手県大船渡市	支援団体(おおふなと 市民活動センター)

令和7年8月 九州豪雨支援	<u>鹿児島県霧島市</u> 8/17~12/25	長期貸出 212 件 短期貸出 49 件 総数 261 件	霧島市、始良市	実施地域周辺の被災 住民及び支援団体、社 会福祉協議会
	<u>熊本県熊本市</u> 8/25~12/25	長期貸出 341 件 短期貸出 37 件 総数 378 件	熊本市、八代市 上天草市、宇土市 宇城市、福津市	
	<u>熊本県八代市</u> 9/4~12/25	短期貸出 89 件 総数 89 件		
	<u>熊本県上天草市</u> 8/29~12/25	短期貸出 51 件 総数 51 件		
	<u>福岡県福津市</u> 9/10~11/30	短期貸出 26 件 総数 26 件		
令和7年8月 秋田県仙北市豪雨	8/29~12/25	短期貸出 2 件 総数 2 件	仙北市	支援団体(秋田県社会 福祉協議会)
令和7年9月 静岡県牧之原竜巻 支援	9/9~12/25	長期貸出 26 件 短期貸出 39 件 総数 65 件	牧之原市	実施地域周辺の被災 住民及び支援団体、社 会福祉協議会
令和7年10月 宮城県仙台市大雨 支援	10/8~翌年1/31	長期貸出 9 件 総数 9 件	仙台市・多賀城市・塩 釜市	実施地域周辺の被災 住民
令和7年10月 八丈島台風22号・ 23号支援	12/2~	長期貸出 3 件 総数 3 件	東京都八丈町	支援団体(八丈町社会 福祉協議会)

(2)その他

- ・宮崎県防災の日にて車被災への備えに関するブースを出展(5/25)
- ・宮崎県防災訓練展示(11/16)
- ・あきた防災フェスタ2025(11/22)
- ・災害時に車の寄付いただいた業界団体や企業に対し御礼動画を作成し報告時に活用

委 託	なし
助 成 金	社会福祉法人中央共同募金会／公益財団法人日本財団 /BS Smile 基金 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム／SPF 休眠預金
寄 付	Yahoo!ネット募金／クラウドファンディング
災害 SRP	スターライト工業株式会社／JU 愛媛
体制強化 プロジェクト	株式会社エーモン／一般財団法人住野勇財団／大橋産業株式会社／三共油化工業株式 会社／呉工業株式会社／ルート産業株式会社／株式会社ボンフォーム

【4】車の寄付推進部

【目標1】 寄付の認知拡大と価値を高める

- ・達成指標1) 新たな広報戦略で認知の拡大(プレスリリース 12 本、SNS 発信 30 本)
- ・達成指標2) 社会に車の寄付の価値をつくる(チラシリニューアル・車の寄付図鑑の作成と運用)
- ・達成指標3) 寄付者に車の寄付の価値を高める(寄付者への活用報告の実施)

評 価

- ・達成指標1) 年間でプレスリリースを 30 本、SNS 投稿 30 本を発信し、活用寄付 160 台を獲得
【達成率:140.3%】
- ・達成指標2) チラシのリニューアル、車の寄付図鑑の運用をした 【達成率:62.5%】
- ・達成指標3) 寄付者へ寄付車両の活用報告を実施 【達成率:85%】

実施内容

- ・車の寄付に関する認知拡大を目的に、継続したプレスリリースおよび SNS を活用した情報発信を通じて、車の寄付の仕組みや活用事例を発信した。
- ・九州豪雨発災時には、「車の寄付で被災地応援プロジェクト」を実施し、報道を通じた活用寄付の車両募集を実施。災害支援と車の寄付を結びつけた情報発信を実施した。
- ・寄付者に対して寄付車両の活用状況を報告し、車の寄付がどのように社会で活かされているかを伝えた。

総 評

- ・プレスリリースおよび SNS を中心とした継続的な情報発信により、車の寄付に関する認知拡大を図ることができた。発信回数は目標を上回り、災害時の発信を通じて、車の寄付が被災地支援につながる仕組みであることを広く伝えることができた。
- ・寄付者への活用報告を行ったことで、車の寄付の価値を「実感できるもの」として共有する取組を進めることができ、広報を外部向けにとどめず、関係者との信頼関係づくりにもつなげることができた。

課 題

情報発信の量は確保できたものの、発信内容や媒体ごとの反応を十分に分析し、次の施策に活かすまでには至っていない点が課題として挙げられる。特に、プレスリリースや SNS 発信が、寄付行動や問い合わせ件数の増加にどの程度結びついたのかを定量的に把握する仕組みは、今後の改善が必要。

また、災害時の発信は高い注目を集めやすい一方、平時における車の寄付の意義や活用事例について、より継続的かつ分かりやすく伝えていく工夫が求められる。今後は、発信内容の質の向上と効果検証を行いながら、より戦略的な広報活動へと発展させていく必要がある

【目標2】 経験と学習をし続けるチームづくり

- ・達成指標1) 毎月のふりかえりとアップデート
- ・達成指標2) AI 活用による効率化
- ・達成指標3) できる仕事がふえる環境づくり

評 価

- ・達成指標1) 月に 1 回の振り返りで業務の効率化をし続けることができた 【達成率:100%】
- ・達成指標2) AI を活用し、計8つの車の寄付の実務を効率化した 【達成率:76%】
- ・達成指標3) 取材対応時のマニュアル作成、車に関する知識の積上げをすることができた 【達成率:80%】

実施内容

- ・業務の質を高めることを目的に、月 1 回の振り返りを実施し、業務内容や課題の共有、改善点の整理を行った。
- ・ChatGPTs 等の AI ツールを活用し、実務マニュアル作成や文章整理などの業務効率化を進めた。あわせて、取材対応マニュアルの整備や車両に関する知識の整理を行い、業務に必要な知識の蓄積と共有を進めた。

総 評

定期的な振り返りを通じて業務改善を行い、経験と学習を積み重ねる体制づくりを進めることができた。AI ツールの活用やマニュアル整備により、業務の可視化と標準化が進み、チームとして対応できる業務の幅が広がった。これにより、個人の経験に依存しがちだった業務をチーム全体で共有し、改善につなげる土台を整えることができた。

課 題

振り返りや改善の成果をチーム全体の中長期的なスキル向上や役割設計に十分反映できていない点が課題である。特に AI 活用については活用度に差があり、活用方法の共有と定着が今後の課題となっている。また、マニュアルや知識についても、継続的な更新や誰でも活用しやすい形への改善が必要であり、今後は学習と実践が循環する仕組みとして定着させていく必要がある。

【目標3】 災害時における持続可能な体制づくり

- ・達成指標 1) 宮城県の災害人材バンクの登録 15 名

評 価

- ・達成指標 1) 車の寄付の受付を担う人材バンクのチラシ作成とその発信 3 件、個別案内 12 件
【達成率: 73.3%】

実施内容

災害時に車の寄付の受付や調整業務を担う人材を確保するため、石巻圏域の災害人材バンクへの登録促進に取り組んだ。

具体的には、車の寄付の受付を担う人材向けのチラシを作成し、関係者への発信を行うとともに、個別案内を通じて登録の呼びかけを行った。

総 評

本目標では、災害時における車の寄付受付体制の必要性を整理し、人材確保に向けた取組を進めることができた。登録目標人数には達しなかったものの、役割や業務内容を可視化し、継続的な人材確保に向けた基盤づくりを行った点は評価できる。

課 題

石巻圏域を中心と災害人材バンク登録の募集だったため、登録者数の伸びが限定的となった。今後は、災害時の具体的な業務内容や関わり方をより分かりやすく示し、参加しやすい仕組みづくりを進めていく必要がある。

【目標4】車をお金に換え、3,500万円の資金調達

- ・達成指標1) リサイクル寄付担当社員を採用1名
- ・達成指標2) 災害時の廃車チャリティの実施
- ・達成指標3) Re 寄付を800台
- ・達成指標4) NPO コラボの実証実験を行う
- ・達成指標5) 中古車販売の実績16台
- ・達成指標6) 支部の協力体制の構築
- ・達成指標7) リサイクル会社との協定3件
- ・達成指標8) クルマ寄付パートナー登録企業・団体100社

評価

- ・達成指標1) 寄付の受付担当スタッフを1名採用【達成率:100%】
- ・達成指標2) 8月九州豪雨時にリサイクル寄付の募集キャンペーンを実施【達成率:100%】
- ・達成指標3) 年間で122台のリサイクル寄付を獲得【達成率:15.3%】
- ・達成指標4) NPO コラボの実証実験には至らなかった【達成率:0%】
- ・達成指標5) 中古車販売の実績7台【達成率:44%】
- ・達成指標6) 取材対応を通じた支部との連携をするもチラシ配布を充分には行えなかった【達成率:80%】
- ・達成指標7) リサイクル会社との協定2件【達成率:67%】
- ・達成指標8) クルマ寄付パートナー登録企業・団体44社【達成率:44%】

実施内容

- ・リサイクル寄付による資金調達を充分に行うため、寄付の受付を担う専任スタッフを1名採用し、問い合わせ対応や業務分担の整理を行った。
- ・8月の九州豪雨発災時には、廃車チャリティキャンペーンを実施し、車の寄付募集を行った。あわせて、取材対応や支部との情報共有を通じて、リサイクル寄付に関する周知を実施。
- ・リサイクル寄付の認知拡大を目的に、リサイクル会社との協定締結を進め、年度内に2件の協定を締結した。
- ・クルマ寄付パートナー制度の周知を行い、企業・団体44社の登録を行った。
- ・NPOとのコラボレーションによるリサイクル寄付の実証実験については、企画検討を行った。

総評

車を資金化するための体制整備と災害時における実践的な取組を進めることができた。特に、専任スタッフの採用や災害時の「車の寄付で被災地応援プロジェクト」の実施により、車を資金につなげる取組を実行できる体制を整えることができた。

一方で、リサイクル寄付の台数や中古車販売実績、クルマ寄付パートナー登録数など、資金調達額に直結する指標については目標を下回る結果となった。広報、支部連携等が十分に連動しきれず、寄付獲得の導線確立するまでには至らなかったことが要因である。

本年度の取組を通じて、車を継続的な資金源としていくためには、目標設定の見直しとともに、寄付獲得から資金化までの流れを整理し、関係者との役割分担を明確にする必要性が明らかとなった。

課題

リサイクル寄付や中古車販売を安定的かつ継続的に獲得するための広報と支部・パートナーとの連携が今後の課題である。また、リサイクル寄付や中古車販売の目標設定が実施体制に対して高く、段階的な目標管理や進捗把握が十分に行えなかった点も課題である。

今後は、広報、支部、リサイクル会社、パートナー企業それぞれの役割を明確にし、現実的な目標設定のもとで段階的に成果を積み上げていく必要がある。

【5】広報・渉外部

【目標1】事業収入金額 6,500 万円達成

- ・達成指標1) リース貸出件数: 300 件(年末時点数字)
- ・達成指標2) レンタカー貸出件数: 500 件
- ・達成指標3) 保険代理店契約件数: 100 件
- ・達成指標4) コミュニティ・カーシェアリング導入委託受注 10 地域

評価

- ・達成指標1) リース貸出件数: 248/300 件【達成率: 83%】
- ・達成指標2) レンタカー貸出件数: 375/500 件【達成率: 75%】
- ・達成指標3) 保険代理店契約件数: 68/100 件【達成率 68%】
- ・達成指標4) コミュニティ・カーシェアリング導入委託受注 0/10 0%【達成率: 0%】

実施内容

主に協会が実施するカーリースの普及目標を達成するために、リースプランの改定や普及促進にかかる旗振りを行った。災害時返却カーリースの自治体・社会福祉協議会への普及を推進し、拡大することができた。また各支部でレンタカーの貸出業務を実施し、リース納車までに車が必要な方へのサポートを行った。保険代理店業務については次年度の業務終了に向けて保険会社との協議を行った。

総評

全体としての件数目標の達成には至らなかったものの、最重要項目である災害時返却カーリースの新規導入目標は大幅に超過し、自治体・社協での導入の記事が出るなど良い兆しを作ることができた。また一部リースの料金改定も行うことができた。全支部の広報・周知活動がこの1年で大きく前進したこともあり、次年度に期待がもてる活動を進めることができた。

課題

支部におけるレンタカーの利用促進、コミュニティ・カーシェアリングの導入について課題が残った。支部スタッフもコミュニティ・カーシェアリング導入にむけた取り組みができるよう、次年度の体制を整えていく。

【目標2】運営に必要な寄付金額 3,000 万円の達成

- ・達成指標1) 法人寄付・会費 1,350 万円
- ・達成指標2) 個人寄付・会費 350 万円
- ・達成指標3) 寄付キャンペーン 700 万円(夏季クラウドファンディング/みやぎチャレンジプロジェクト)
- ・達成指標4) ふるさと納税 400 万円
- ・達成指標5) その他 200 万円

評価

- ・達成指標1) 法人寄付・会費 1,659.2 万/1350 万円 【達成率:127%】
- ・達成指標2) 個人寄付・会費 415.8 万/350 万円 【達成率:118%】
- ・達成指標3) 寄付キャンペーン 合計 807 万/700 万 【達成率:115%】
 - ① クラウドファンディング:679 万/600 万円 【達成率:113%】
 - ② みやぎチャレンジプロジェクト 128 万/100 万円 【達成率:128%】
- ・達成指標4) ふるさと納税 165.8 万/400 万円【達成率:41%】
- ・達成指標5) その他 200 万円 168.9 万/200 万円【達成率:84%】

実施内容

通年を通して、活動を推進するための必要な資金の支援を呼びかけた。とりわけ能登半島支援・夏季の災害支援費用を確保するためのクラウドファンディング、支援拠点設置のための企業協賛、安定財源となる法人賛助会員の拡大など協会の活動の持続性を高める大きな支えとなった。また V ポイント、OSUSO など気軽にできる寄付の発信も随時行った。

総評

・通年を通して、活動を推進するための必要な資金の支援を呼びかけた。とりわけ能登半島支援・夏季の災害支援費用を確保するためのクラウドファンディング、支援拠点設置のための企業協賛、安定財源となる法人賛助会員の拡大など協会の活動の持続性を高める大きな支えとなった。また特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京(SVP 東京)の投資・協働先に応募し、採択となった。10 月から協働が開始され、中期計画の作成や広報・ファンドレイジングに関わる協働も始めることができた

課題

ふるさと納税が当初想定よりも伸びなかった。ハードルの低い支援方法であることは変わらないため、多くの方に知っていただき協会への支援の入り口としての認知を広げていきたい。また災害時のみでなく、支部運営に必要な安定財源を厚くしていく必要があるため、賛助会員等の継続的なご支援を高めていく施策にチャレンジしていきたい。

【目標3】新規支援者人数 600 人+50 社

- ・達成指標1) 架け橋ドライバー登録者数 300 人増
- ・達成指標2) 新規金銭寄付者 300 人
- ・達成指標3) 新規金銭、物品寄付企業 50 社

評価

- ・達成指標1) 架け橋ドライバー登録者数 380 人増 【達成率:126%】
- ・達成指標2) 新規金銭寄付者 365 人 【達成率 121%】
- ・達成指標3) 新規金銭、物品寄付企業 20 社【達成率:40%】

総評

架け橋ドライバーは全国各地での災害対応の際や、イベント開催を通じてに伴い効果的に募集をすることができ、目標を大幅超過することができた。新規に寄付をいただいた方は、JAMMIN とのコラボレーション

Tシャツの購入や、クラウドファンディングで初めてご支援を頂いた方、これまでつながりのあった企業が法人賛助会員になっていただくことができた。

課題

支援いただいている方との関係性を把握するためのデータベース作成が十分に機能しておらず、効果的な施策をうつことができなかった。次年度はデータベース整理を優先的に行い、協会をご支援いただく方達がより関わりやすくなる仕組みにしていく必要がある。

【6】支部推進部

【目標1】支部を黒字化する

- ・達成指標1) リースで必要経費を確保する
- ・達成指標2) 人材の確保をする
- ・達成指標3) 助成金の獲得をする
- ・達成指標4) 各支部の毎に廃車リサイクル寄付を10台募る
- ・達成指標5) 支部の経費を明確化する

評価

- ・達成指標1) リースで必要経費を確保する【達成率:36%】
支部毎に各42件(計168)の貸出目標に対し60台
- ・達成指標2) 人材の確保をする【達成率80%】
秋田1名、佐賀1名、静岡2名の新規採用を実施。
- ・達成指標3) 助成金の獲得をする【達成率:100%】
 - ①佐賀で困窮者支援に関する助成金を獲得
 - ②支部推進力を高めるためのSVP東京からの支援金を獲得
- ・達成指標4) 各支部の毎に廃車リサイクル寄付を10台(計40台)募る【達成率:126%】
佐賀5、栃木2、静岡7、秋田4 18台 45%
- ・達成指標5) 支部の経費を明確化する 達成 ※部署再編のため再整理必要

総評

支部スタッフの育成のため入社時の研修フロー、週次のミーティングの設定、渉外活動に関する指導を行った。採用により渉外活動ができるスタッフが揃い、秋口から本格的な渉外活動を行い、各支部で成果を上げることができた。

課題

歴が浅い支部スタッフが自分の言葉で活動を伝えていけるようになるまでの遠隔のサポートが課題である。本部スタッフが支部に赴いて直接指導する機会をどれだけ作れるかで支部の成長度合いが変わる。

【目標2】支部メンバー同士で業務をフォローできる体制

- ・達成指標1) リース業務を各支部で完結できる
- ・達成指標2) レンタカー業務の理解をする
- ・達成指標3) 車両の受け入れ、引き渡しを仕組化する
- ・達成指標4) スキル一覧を8割習得する

評 価

- ・達成指標1) リース業務を各支部で完結できる【達成率:70%】
- ・達成指標2) レンタカー業務の理解をする レンタカー事業を行っていない支部を除き達成【達成率:66%】
- ・達成指標3) 車両の受け入れ、引き渡しを仕組化する【達成率:100%】
- ・達成指標4) スキル一覧を8割習得する 職務級ごとの必要スキルの習得率【達成率:80%】

総 評

ミーティング内での研修や、OJT、AI活用を通じたスキル向上に関するサポートを行い、石巻本部に確認しながらではあるが一連の業務を支部内で完結できるようになった。車両の受け入れ、引き渡し、返却などそれぞれのタスクに対しての todo をチェックリスト化し、漏れ防止を図った。

課 題

支部に求めるスキルが多く、少人数でもやりきれるような業務の効率化、整理が必要となっている。

【目標3】支部の認知度向上

- ・達成指標1) 各支部で1年間に報道対応を4回する
- ・達成指標2) 各支部で1年間に講演を2回する
- ・達成指標3) NPOセンター、行政、社会福祉協議会に訪問する
- ・達成指標4) 各支部で1年間に1回イベント出店する(移住、NPO、モビリティ、バルーンフェスタ等)
- ・達成指標5) 各支部でチラシ配布場所 24件以上/年

評 価

- ・達成指標1) 各支部で1年間に報道対応を4回する 支部で計11回報道対応【達成率:100%】
- ・達成指標2) 各支部で1年間に講演を2回する 4支部で計4回実施【達成率:75%】
- ・達成指標3) NPOセンター、行政、社会福祉協議会に訪問する
行政、社協への全訪問完了【達成率:100%】
- ・達成指標4) 各支部で1年間に1回イベント出店する
(移住、NPO、モビリティ、バルーンフェスタ等) 全支部で出店【達成率:75%】
- ・達成指標5) 各支部でチラシ配布場所 24件以上/年【達成率:20%】

総 評

支部の認知度を高めるための活動量を確保するため、支部の採用を進め、これまで訪問しきれなかった行政の窓口や社会福祉協議会、NPOセンター等への訪問を実施した。支部スタッフでの講演などこれまで、石巻のスタッフでしかやってこなかったことを実施することができ、新たなつながりをつくることができた。本年度で動いた成果が次年度に出てくる兆しが見られている。また、報道対応を経験できたスタッフもあり、今後の活動の幅が広がった1年であった。

課 題

さらなる認知度拡大に向けて、行政・社会福祉協議会のみならず、地域の企業、市民にどうやって協会の活動いただくか、参加を促すかという施策づくりが必要であると感じた。また少ない人数での支部運営になるため、ボランティアさんとのつながりなど人的資本を地域ごとにどう獲得するかも考えていきたい。

【7】総務部

【目標1・会計】四半期毎の決算を実施する

- ・達成指標1) 四半期決算を実施する
- ・達成指標2) 会計業務の役割分担を再編する

評 価

- ・達成指標1) 3 回中 2 回実施 【達成率:66%】
- ・達成指標2) 会計業務の役割分担を再編する 【達成率:100%】

実施内容

- ・第二四半期分の実施が遅れ、第三四半期分は実施出来なかった。
- ・期中の人員変更に対応するため、分担の再編及び新入スタッフのレクを実施した。

総 評

・当事業年度は年間を通し人員不足による業務遅延が問題となった。第 4 四半期にて人員補充と翌年度にて人員配置の変更を実施し、これの改善に動いた。

課 題

2026 年 1 月に大幅な配置変更が実施されたため、新体制を担うスタッフへの各種引継ぎを急ぎ進める必要がある。

【目標2・システム構築】アプリのブラッシュアップ

- ・達成指標1) まきたろうの改修をする(コミュニティ・サポート事業用システム)
- ・達成指標2) リースアプリの改修をする
- ・達成指標3) 応募者管理を kintone に移行する

評 価

- ・達成指標1) 作業完了 【達成率:100%】
- ・達成指標2) 2025 年着手分は対応済 【達成率:80%】
- ・達成指標3) 着手せず 【達成率:0%】

実施内容

- ・指標 1 の内容は外注先の作業と旧システムからのデータ移行含めて完了済み。
- ・指標2はシステム部門への依頼範囲は完了済み。ただし 2025 年度末にカーリースのプラン改定があったため、2026 年度にてシステムにも反映を進める。
- ・指標 3 は別システムにて管理を進めた。

総 評

コミュニティ・サポート関連のシステムはユーザーからの扱いやすさや管理側での集計機能追加などを中心に進めた。カーリースシステムについては、プラン改定や部署編成の変更が年度末に実施されたため、次年度に刷新されたワークフローに基づきシステム側の改定も必要となる。

課題

- ・カーリースシステムの改定

【目標3・経営企画】事業計画・事業報告・中期計画をつくる仕組みづくり

- ・達成指標1) 事業計画・報告をスケジュール通りに実施する
- ・達成指標2) 中期計画づくりを行う

評価

- ・達成指標1) 2024 年度報告・2025 年度計画分 2026 年度計画、全て実施済【達成率:100%】
- ・達成指標2) 協働事業において年度内にて作成完了【達成率:100%】

実施内容

- ・令和6年度総会に係る報告・計画の作成は期日までに実施できた。
- ・2026年度事業計画及び中期計画は、第4四半期にて特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京(SVP東京)との協働事業が開始され、経営支援を受けられることとなった。非営利組織運営のノウハウを持つプロボノより支援を受けつつ、法人の現況や目標・収支計画値を整理し、三箇年の中期計画として策定することが出来た。

総評

事業計画は SVP 東京との協働事業の枠組みにおいて策定した。プロボノによる助言を踏まえ、過去実績の整理から着手した結果、実績値に基づき実現可能性が担保された規模での事業拡大指標を設定することができた。

課題

担当者の変更が複数回あり、どこまでを担当するのか曖昧なため各事業部と役割を明確化する必要がある。また、記載ルール等も明確し、軽微な修正などを減らす体制づくりが必要である。

【目標4・人事】人材の確保と育成の仕組みをつくる

- ・達成指標1) 人材確保の仕組みをつくる
- ・達成指標2) 人材が育つ仕組みをつくる

評価

- ・達成指標1) 人材確保の仕組みをつくる【達成率:80%】
- ・達成指標2) 人材が育つ仕組みをつくる【達成率:80%】

実施内容

- ・人事採用経験のある人材を新規採用し、採用推進体制を整備
- ・必要人員数を整理(フルタイム1名、パート1名)
- ・ペルソナを整理し、求人票の記載内容を修正
- ・応募数が少ない場合は求人内容を修正し、再掲載する運用を実施
- ・2ヶ月に1回のペースで職員研修(コンプライアンス研修、接遇研修等)を実施
- ・採用した職員に対し、マンツーマン指導を実施
- ・職員一人ひとりのモチベーションを把握し、積極的な声掛けと相談しやすい環境を整備

- ・本人と面談を行い、活躍できる場を共に検討し、成果が出るよう支援
- ・成果を上げた職員を積極的に昇格推薦

総 評

人材の「確保」と「育成」の両面において、継続的に機能する仕組みづくりに取り組んだ。採用面では、採用経験者の配置や必要人員の明確化、求人内容の見直しと改善運用により、属人的になりがちだった採用活動を仕組み化する基盤を整えた。また育成面では、定期的な研修やマンツーマン指導、日常的な声掛けや面談を通じて、職員一人ひとりの成長とモチベーション向上を支援する体制を構築した。さらに、成果を正當に評価し昇格につなげる運用を行うことで、職員の意欲向上と組織全体の活性化を図った。これらの取り組みにより、人材が定着し、成長し続ける組織づくりに向けた土台を整えることができた。

課 題

- ・求人媒体別の効果測定や採用プロセスの標準化を進め、再現性の高い採用体制を構築する
- ・研修内容や育成プロセスを体系化し、属人化しない人材育成の仕組みを整備する
- ・評価・昇格基準を明確化し、職員の成長意欲と定着率の向上を図る

【目標 5・総務・法務・税務・労務】年間スケジュールを作成し適切に実行する

- ・達成指標1) 年間スケジュールの作成を行う
- ・達成指標2) (労務)就業規則の見直しと雇用契約書の改定を行う
- ・達成指標3) (法務)損害保険へ加入する

評 価

- ・達成指標1) 年間スケジュールの作成を行う【達成率:20%】
- ・達成指標2) (労務)就業規則の見直しと雇用契約書の改定を行う【達成率:100%】
- ・達成指標3) (法務)損害保険へ加入する【達成率:100%】

実施内容

- ・2026年度の体制変更に合わせスケジュールの刷新が必要なため、2025年度は現状整理まで進めた。
- ・就業規則と雇用契約書の改定は、現行の法規制等に照らして不足している箇所を更新した。
- ・法人の損害保険に加入し、情報漏洩等の賠償リスクに対応した。

総 評

指標1は2025年度中の人員変更が多く、スケジュールの策定まで進めることが出来ない状況で合った。労務・法務の面については法人運営に係るリスクに対応できるよう規程類や体制の変更を進めることができた。

課 題

急な担当者の変更等があり、まずは基礎固めを行うことが必要である。

【目標 6・支援者管理】欲しい情報が欲しいときに抽出できる仕組みづくり

- ・達成指標1) 発送リストとして運用できるようにする

- ・達成指標 2) 団体の現物寄付履歴をキントーンに集約する
- ・達成指標 3) 架け橋ドライバーの情報をキントーンに集約する

評価

- ・達成指標 1) 寄付情報入力先の kintone アプリ作成 【達成率:10%】
- ・達成指標 2) 団体の現物寄付履歴をキントーンに集約する 【達成率:0%】
- ・達成指標 3) 架け橋ドライバーの情報をキントーンに集約する 【達成率:0%】

実施内容

支援者リストの整理の段階で停滞、一部リストのテンプレートを作成するのみで当年度の進捗はほぼ無かった。2026 年度に SVP 東京の協働事業内でリスト整理を進める予定となっている。

総評

登録ルールが不十分な状態で運用していたため、現行リストが複雑化していた。法人内でのリスト整理が 2026 年度は SVP 東京の協働事業を中心に進行することとなった。

課題

- ・支援者リストの整理(重複削除や登録ルールの整備)
- ・担当者が複数の業務を抱えており、時間の確保ができないため業務調整が必要である。

【目標 7】 AI 活用による業務時間短縮

- ・達成指標 1) 毎月の出勤簿チェック機能 【達成率:0%】
- ・達成指標 2) 予実管理表の作成支援 【達成率:100%】
- ・達成指標 3) 会計入力支援(外部 CSV の自動加工等) 【達成率:100%】

評価

- ・達成指標 1) 着手せず 【達成率:0%】
- ・達成指標 2) 数式等構築に ChatGPT 運用 【達成率:100%】
- ・達成指標 3) 数式等構築に ChatGPT 運用 【達成率:100%】

実施内容

期首時点で予定していた内容は一部着手しなかったが、必要な範囲にて AI 運用を行った。業務改善のツール等作成が出来た。

総評

今年度は既定のワークフローに組み込むのではなく、都度知識等を収集するための AI 運用が主だった。特に労務など法規制を広範かつ詳細に把握する必要がある分野では生成 AI を初期情報とすることで調査に要する時間を大幅に短縮できた。

課題

- ・各部署個別に AI 運用を進めたために分散したノウハウを集約する必要がある。

(8)車両管理チーム

【目標1】事故・車両トラブルの情報蓄積の見直しとトラブル率の軽減

- ・達成指標1) 情報収集方法の見直しをする
- ・達成指標2) 事故情報を把握する仕組みの構築
- ・達成指標3) 毎月ミーティングを実施し、対策を立案する

評価

- ・達成指標1) 情報収集を実施、キントーンへの入力項目と入力体制を見直しすることができた【達成率:100%】
- ・達成指標2) 事故発生時に Google フォームによる情報収集を実施することができた【達成率:50%】
- ・達成指標3) 毎月ミーティングを行い、情報の分析・共有を行うことができた【達成率:94%】

実施内容

- ・キントーンの入力項目を整理し、リースプラン変更に伴う点検期日の自動表示や、事故・トラブル情報を集約する専用アプリの作成。
- ・事故対応を、リース車両、CCS 車両、災害時活用車両の 3 つの区分に分け、チームメンバー3 名で分担して対応する体制への移行。

【目標2】チームメンバーが事故対応できるようになる

- ・達成指標1) 3 名が事故対応できるようになる

評価

- ・達成指標1) 災害時、リース、CCS に分担し事故対応をスムーズに進めることができた【達成率:73%】

実施内容

Google フォームを導入し、事故発生時の情報収集フローを構築。

総評

車両管理に必要なキントーンへの情報入力を整理し、システムの変更を実施することができた。その結果、リースプラン変更に伴う点検期日の表示や事故・トラブルの集約するアプリを作成し事故・トラブルの傾向を調査し分析に繋げることができた。リース車両(石巻近郊、県外)、CCS 車両、災害時の活用車両の管理を分担したことにより、車両管理の精度向上につながった。

課題

- ・整備の可否について、これまでの選定基準を見直しが必要
- ・車両の管理体制を整理し、発災時の円滑な車両管理ができる体制づくり

【その他にあった取組み】

- (1) 事務局運営
 - ・会計、総務、労務人事、法務の適切な実施
- (2) 車両管理
 - ・レンタカー車両の法定点検・車検の実施

・その他車両・自動車保険の管理

▷自動車保険 カーシェアフリート 51%→42% / レンタカーフリート 53%→60%

▷車両維持費 : 27,252,676 円 (前年度比 95%)

・学生整備プロジェクトの実施(石巻専修大学共同プロジェクト)

	実施日	参加車両台数
春の学生整備プロジェクト	4/17~19	45 台
秋の学生整備プロジェクト	11/26~28	48 台

協賛企業 日本ミシュランタイヤ(株)、横浜ゴム(株)、PIAA(株)、ルート産業(株)、三共油化工業(株)、
パナソニックカーエレクトロニクス(株)、(株)ハンコックタイヤジャパン、中央精機(株)、
中央精機東北(株)、(株)ウエッズ

委 託	なし
助 成 金	TIS × 日本 NPO センター × TechSoup 協働事業
補 助 金	なし

【受 賞】 なし

正会員	5 名	準会員	13 名	賛助会員	26 名
-----	-----	-----	------	------	------

以上